



清流NEWS

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1 Tel 042-514-8309
発行日 1月・4月・7月・10月

Vol.118
発行
日野市
環境共生部
緑と清流課



第8回 あさかわ写真コンクール ～しぜん・ひと・まち～

日野市と八王子市、両市を流れる浅川を源流から多摩川合流点までひとつの流域として捉え、良好な水辺環境と心豊かな浅川流域のまちづくりを目指し、浅川流域連携事業として始めました、あさかわ写真コンクールも今回で8回目を迎えました。

今年も多くの募集があり、四季それぞれの風景や生きもの、人々との関わりが見られる浅川の写真でした。そして、平成30年11月3日（土）には、日野市多摩平の森ふれあい館にて表彰式が開催され、入賞者の方々に賞状と副賞の授与が行われました。

当日は、大坪日野市長、石森八王子市長および、協賛企業のカシオ計算機株式会社の古宇田様、コニカミノルタ株式会社の橋本様より贈呈が行われました。



入選者集合写真



大坪日野市長と石森八王子市長

▼一般の部 最優秀賞



『霧に浮かぶふれあい橋』

小川 圭太

▼中学生以下の部 最優秀賞



『滝と橋』

石川 優太

入選結果及び入選作品の一部を次項にてご紹介します。
(全ての入選作品は日野市・八王子市のホームページにて公開しております。)

～第8回あさかわ写真コンクールの結果～

□作品募集期間 平成30年4月1日から8月31日まで

□応募作品数 総数407作品（一般の部358作品、中学生以下の部49作品）

□入選作品数 一般の部：15点 中学生以下の部：11点

一般の部	
最優秀賞	
霧に浮かぶふれあい橋	小川 圭太
優秀賞	
雪降る南浅川橋	池田 榮雄
浅川に遊ぶ	原田 恵一
日野市長賞	
ダイヤモンド富士	山岡 恵美
八王子市長賞	
水面に映る鯉のぼり	佐久間幸士郎
佳作	
川霧と日の出	伊藤 良一
春真っ盛り	岡田 史郎
きみとボクとおさかなと	亀ヶ谷菜花
宣言	亀山 泰二
十文字に輝くダイヤモンド富士	篠 正治
平和への祈りリレー	中西 隆
夜桜とふれあい橋	向中野祐司
浅川をおおう巨大な白雲	山本 彰三
浅川を探検	吉野 邦夫
秋景に染めて	渡邊 英明

▼一般の部 優秀賞



『雪降る南浅川橋』 池田 榮雄

▼一般の部 優秀賞



『浅川に遊ぶ』 原田 恵一

▼一般の部 日野市長賞



『ダイヤモンド富士』 山岡 恵美

▼一般の部 八王子市長賞



『水面に映る鯉のぼり』 佐久間幸士郎

中学生以下の部	
最優秀賞	
滝と橋	石川 優太
優秀賞	
波紋にカワセミ	買田 賢
浅川の桜	城ヶ崎一心
日野市長賞	
夕日におどる水	水口 信綱
八王子市長賞	
飛行機雲	関根 優希
佳作	
夏の風景	石原 雄斗
鯉の橋渡り	大野 綾音
川の表の生命	日下 遥斗
いつもの景色	小山 咲風
おじさんとこども	朴 地勇
お出かけ	檜山 結衣

▼中学生以下の部 優秀賞



『波紋にカワセミ』 買田 賢

▼中学生以下の部 優秀賞



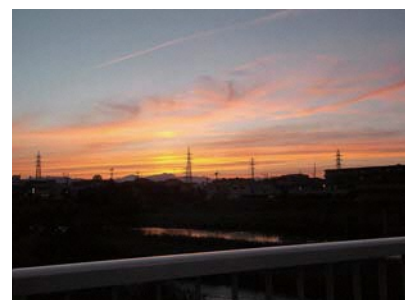
『浅川の桜』 城ヶ崎一心

▼中学生以下の部 日野市長賞



『夕日におどる水』 水口 信綱

▼中学生以下の部 八王子市長賞



『飛行機雲』 関根 優希



市の花「菊」の

よもやま話



「市の花」は、今からもう半世紀近く前の1973年

(昭和48年) 11月3日(市政施行から10年後)に「菊」と制定されました。理由は、「四君子」(その高潔な美しさを君子に喩えた、梅・菊・蘭・竹の総称)の一つに数えられ、日野に縁の深い「カワラノギク」の可憐さが人の心を引きつけるからです。ところで、日野に縁の深いという「カワラノギク」を皆さんご存じですか？

カワラノギクって、どんな菊？



▲カワラノギク

カワラノギクは、1927年(昭和2年)に立川市内を流れる多摩川の河原で発見さ

れた、日本固有種です。多摩川をはじめ、関東地方の限られた河川の中流域で、増水時に時々冠水するような氾濫原の砂礫地が生息地です。草丈50センチ余で、10〜11月、淡い紫から白色の花を茎の上部に房のように咲かせます。

1970年代まで多摩川の各所で咲いていたのですが、現在は絶滅危惧種(環境省・東京都とも)に指定されています。左上の写真は、1999年(平成7年)に市内の多摩川の河原で撮影されたものですが、その頃には既に生育地が激減し、1999年(平成11年)には、市内の河原では姿を消してしまいました。

市民の努力で、保全・回復にチャレンジした歴史

2002年(平成14年)頃から、ボランティア団体「日野みどりの推進委員会」が中心となり、多摩川にカワラノギクを甦らせる試みが始まりました。03年(日15年)秋に

は3株、04年には9株、05年には6株、06年には18株と順調に育ち、07年の夏の調査では二十数株が確認され、往時を偲ばせるような開花が期待されましたが、生憎その年の9月に襲来した台風の豪雨によって、生育地は跡形もなく流されてしまったそうです。自然の摂理とはいえ、ボランティアの皆さんの悔しさはいかばかりだったことでしょう。

古典菊・園芸種も魅力的な美しさ

野生種のカワラノギクは絶滅してしまいましたが、菊は多種多様です。園芸種も古くから数多く栽培され、手を掛ければ掛けるほど美しく、鑑賞価値の高い花が咲きます。緑と清流課では、「市民普及に努めています。日野市菊有会や、日野市環境緑化協会・日野市観光協会などの皆さんと手を携えて、秋の菊花展に向けた準備が今年も既に始まっています。

ここで昨年来を顧みます。日野市内の菊花展としては、競

技花で「内閣総理大臣賞」が用意されている多摩地域最大規模の「高幡不動尊菊まつり」がまず挙げられます。

この菊まつりで、不動堂へ上る階段の両脇を飾るスペースは日野市(緑と清流課)の受け持ち。ここに展示した「千輪咲き」は、数多くの株を植えているのではなく、実は一株の菊から出来ています。実際の花数は、千輪とはい



▲千輪咲き

かず、百輪以上あれば「千輪咲き」と称しますが、この作品は、250輪から300輪咲いています。何度も鉢を入れながら枝分かれさせて育て、裾の広い円錐形に整えました。



こちら(写真右)は名付けて「菊ダルマ」。このように様々な表情のお面を付けた菊鉢を三十数鉢飾り、観覧客の笑顔を誘いました。

魅せられるものを観やすく

また、例年市役所と市民会館に挟まれた木陰のスペースでも菊花展を開催していましたが、昨年は隣の日野中央公園のステージを中心とした広いエリアで開催しました。明るく開放的と好評でしたが、ボール遊びの子どもたちとの共用に課題が残りました。老朽化した展示小屋についても、美観や設置・撤去の簡便性などに工夫する余地があり、他の菊花展を見学して得た好例を取り入れ、今年の菊花展に(猪突猛進を抑えて)活かしたいと考えています。

浅川潤徳水辺の楽校

平成17年度から浅川潤徳水辺の楽校としての活動が始まり、はや10年以上が過ぎました。様々な活動を通して、水辺の楽校は今もなお、多くの子どもたちと触れ合いながら活動を広げています。

○水辺の楽校とは

そもそも水辺の楽校というものは、教育関係者・河川管理者・市民団体が連携して、子ども達の河川の利用を促進し、地域における子ども達の体験活動の充実を図ろうというも



のです。潤徳小学校の、水辺の楽校は潤徳小の先生方・市役所・地域にお住いのボランティアの方々に活動を行って

○基本的な活動

活動としては月一回程度、学校にて幹事会を開き、学校・市役所・市民ボランティアが水辺の楽校推進協議会として次のイベントの準備について打合せを行ったり、直近のイベントの報告・反省などを話し合ったりしています。イベントでは、推進協議会のメンバーが中心となり、イベントの運営を行い安全管理や、遊びを教えたりしています。



○浅川潤徳水辺の楽校について

潤徳小は近くに浅川が流れており、学校裏には向島用水親水路として、とんぼ池がありビオトープにもなっております。基本的に、浅川のふれあい橋周辺で水辺の楽校の活動をしており、5月には竹笛を作ったり、石に絵を描いたり、竹馬・竹ぼっくりに乗り遊んだり、橋から縄を垂らし、ターザンロープとしてブランコのようにして遊び、8月は暑い気温の中、浅川に入り、ガサガサやボート、飛び込みなど思いっきり水の中で川遊

○スタッフの募集について

10年以上活動をしてきている中で、水辺の楽校設立から関わってくださっている市民のボランティアの方々も高齢化という問題に直面しています。そこで、水辺の楽校の活動を一緒に手伝って下さるスタッフを募集しています。現



びを楽しみ、1月には日野市でも大きな、どんど焼きを行います。やぐらの材料集めから、やぐら組み、当日の火付けまで水辺の楽校のメンバーに加え、PTAの方々の力を借りながら、行っています。



在活動を共にしている方々は、もともと学校にお子さんやお孫さんがいたり、見回りで学校の子どもたちと関わりがあったりという方が中心です。もちろん、潤徳小に関わりがない方でも大歓迎です。子どもと遊ぶのが好きだったり、水辺に関わること・自然環境に興味がある方などなど。次の世代に日野市の水と緑を伝えていく担い手になっていただけたらと思います。

お問い合わせ先

緑と清流課 水路清流係
森田 042-514-8309

産業まつりで桑ハウスの特別公開を行いました！

平成30年11月10日、11日の第52回日野市産業まつりで国登録有形文化財「旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室」（通称：桑ハウス）の公開を行いました。今年は桑ハウス内の1部屋を一般公開し、そのほかの部屋は学芸員の解説付きのガイドツアーでの見学が行われました。1日5回のガイドツアーはほとんどの回が定員いっぱいで大盛況でした。学芸員による蚕室（蚕を育てていた部屋）や、蚕を育てるために使われていた暖房器具の解説など、当時の桑ハウスを思い起こせるような解説でした。

あわせて、一中地区アクションプランによる「蚕の糸取り体験」、日野市商工会による、桑ハウスの木部の防虫・防水剤としても使われていた柿渋を使った「柿渋塗り体験」も行われ、桑ハウスを身近に感じるきっかけになったのではないのでしょうか？

2日間の公開で、桑ハウスにはのべ1,809名の方にご来場いただき、「蚕の糸取り体験」「柿渋塗り体験」も想定より多くの方に体験をしていただきました。たくさんの方に足を運んでいただきありがとうございました。

今後も日野市の宝である桑ハウスの保存や活用の進行にどうぞご期待ください。



第19回 用水守懇談会が開催されました



平成30年12月22日に日野市役所504会議室において「第19回用水守懇談会」が行われました。

今回、12月というお忙しい中、用水守11名（団体含む）、用水組合から11名が出席され、初めに、日野市長からの挨拶、用水守の方々の活動報告やご意見、各用水組合長から田んぼや現在の状況などの説明があり、出席者が今後、田んぼや用水路をどのようにして守っていくか話し合いました。

用水守さん募集

日野市内を流れる用水路は、江戸時代に築造が始められ、総延長約116kmにおよんでいます。現在は農業用水としての活用は減りましたが、「親水路」や「ふれあい水辺」としていっそう身近なものになってきています。この身近な水辺と恵まれた水環境を私たちの次の世代に伝えていくために、市民の皆様と協働の視点で活動していただくのが用水守制度です。

用水守さんとは、恵まれた日野市内の水環境を私たちの子孫に伝えるために市内の用水路、河川、湧水地を市と住民が手を携えて清掃・草刈・緑化等を行っていただく方を言います。「用水守」として登録いただき、水辺環境の保全活動への協力をお願いしています。次に用水守制度の詳細を説明します。

●活動内容

ご都合の良い時に、できる範囲で市内の用水路、河川、湧水地等の清掃・保全・緑化等の活動をお願いしています。時間、回数、内容の制限は特にございません。

●登録資格

個人・企業・自治会・市民団体等。大人でも子供でも誰でも登録できます。年齢制限はありません。

●市の対応

保険加入（活動中の用水守さんのけが等に対応します）

・登録証、腕章の交付（申込後、郵送いたします）



●別旅公園 (街区公園183)

所在地…高幡426-13 / 面積…212㎡ / 開園日…平成21年4月1日

別旅は若宮神社のあたりの小字名です。その昔、高幡不動尊の脇侍、矜羯羅・制吐迦二童子像を作った旅の僧がいました。

村の人々はたいへん喜んで、僧が村を去る時皆で見送ったのですが、この地まで来て忽然と姿を消してしまいました。村の人々は、旅の僧は仏の化身であったのではないかと噂しました。僧が姿を消した場所を「別旅」と名づけ、宇佐八幡を勧請し、別旅明神社(後の若宮神社)を建立、高幡村の鎮守としました。

●潤徳公園 (街区公園188)

所在地…高幡507-5 / 面積…248㎡ / 開園日…平成16年9月1日

浅川に沿うこのあたりは、江戸時代、雨がふるとたびたび洪水に見舞われたところでした。人々はこのようなどころにも田畑を開墾しました。

このあたりの字名である河原畑・上河原・下河原が当時をしのびさせます。昭和10年代になって堤防が整備されると、この辺りにあった遊水地は田畑となり、当時この地域に住む30数軒が、それぞれの営農力に応じて農作物の栽培をしていました。昭和40年

代までつづきました。

昭和34、35年にはこの地の東側に、人口増などで手狭になりはじめた潤徳小学校が三沢から移転してきました。

潤徳小学校は、明治6年、潤徳学舎にはじまる、日野市の中で最も伝統ある小学校のひとつです。



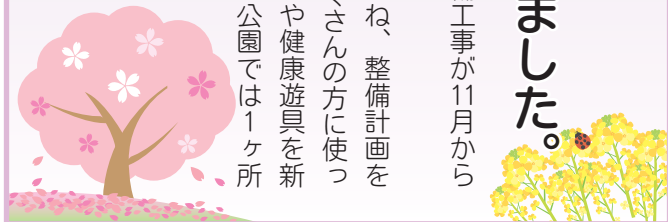
(C) 2017 PASCO CORPORATION.
(C) 2017 INCREMENT P CORPORATION.
いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

日野台公園

整備工事が始まりました。

日野台4丁目の「日野台公園」の整備工事が11月から始まりました。

地域の方たちとのワークショップを重ね、整備計画を作っていきました。子供から大人までたくさんの方に使っていただけの公園になるように、トイレや健康遊具を新設します。個人的な目玉は、日野市内の公園では1ヶ所目の末広がりの幅広のすべり台です！
リニューアルオープンは来年の夏ごろを予定しています。ぜひ遊びに来てください。



清流ニュースに
ひとこと

清流ニュースに、「こういう記事を載せて欲しい！」や「こんなイベントを企画して欲しい！」など、皆さんからのご意見・ご要望を募集したいと思います。

次号以降の清流ニュースの編集の参考にさせていただきます。

宛先 (お手紙、ファックス、メール等
でお願いします)

日野市役所 環境共生部 緑と清流課
清流ニュース担当宛て

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1
ファックス 042-583-4483
メール seiryu@city.hino.lg.jp



水辺のある風景 日野50選

選ばれた水辺を紹介します

④新井の田んぼと水路のある風景



せせらぎ農園付近の田んぼ (水路右手はかつて田んぼだった)

新井地区は、日野市の農あるまちづくりの拠点となっており、南新井、新井交差点付近には田んぼがまとまって残っています。新井にある「せせらぎ農園」では、市のごみゼロ推進課の委託を受け、生ごみリサイクルのモデル事業として家庭から集めた生ごみを堆肥化して野菜作りをしています。作業日には親子連れから高齢者まで、幅広い世代の人たちが農園で楽しそうに活

水路のある風景

動する姿が見られます。この付近の水路は、かつて地権者と市の担当者との努力の結果、素掘りまたは板柵で保全・整備されており、水路沿いは生態系豊かで、魚やザリガニなどの水生生物も多く、トウキョウダルマガエルやヤマカガシなど、今では見ることの少なくなつた水辺の生き物に出会う事もあります。コンクリートで護岸されていない水路は、子供たちの遊び場としても親しまれています。

しかしながら、水辺50選に選定されてから今日までの間に、新井地区の農地は急速に減少してしまいました。特に、土地所有者の好意やボランティアの努力により23年間も続いている潤徳小田んぼより上流では、相続のため宅地化が進み、残る田んぼはわずかです。前述のせせらぎ農園一帯でも区画整理の準備が進んでおり、素

掘りの水路が残る田んぼと畑の風景がなくなってしまうのではと危惧されます。水辺50選に選ばれた「水の郷・日野」の貴重な財産である「田んぼと水路のある風景」を未来に引き継ぐために私たちはどうすればいいのか、真剣に考える時が来ているのではないのでしょうか。



潤徳小田んぼで稲刈りをする子供たち



用水路で遊ぶ子供たち

市内一斉清掃

市では、「日野市みんなであちをきれいにする条例」に基づき、毎年5月(春)と11月(秋)の最終日曜日をみんなであちをきれいにする日として市内一斉清掃を行います。

今年度の秋の一斉清掃では明星大学、実践女子大学の他に、野球チームの日野ボーイズ、百草台フェニックスの選手たちも参加し自治会の方々と協力し清掃を行ってくれました。

このように自治会や学生ボランティア等、様々な団体が協力しながら清掃することで、みなさんの交流を深め、地域



百草台フェニックスの選手が参加してくれたよ!

のつながりを強めるきっかけづくりとしていただければ幸いです。
来年度は、5月26日に春の一斉清掃を予定しております。今回同様ご協力よろしくお願ひします。

平成30年度 秋の一斉清掃

参加団体 (組)	281	
参加人数 (人)	16,500	
収集量 (kg)	可燃	32,534
	不燃	1,180



日野ボーイズの選手たちも参加してくれたよ!





スズメの不思議

〈ルーツはイワヒバリ〉

2017年4月1日号のハクセキレイから前号のガビチヨウまで、日野市でよく見られるようになった鳥を取り上げてきました。今号からは、身近な鳥の不思議について紹介いたします。まずはスズメ。英名はEurasian Tree Sparrowで、日本では人家付近にしかないのに、ヨーロッパでは郊外にいます。ヨーロッパで町に多いのはHouse Sparrow（イエスズメ）という別種ですが、いずれもアメリカ大陸には分布していません。イエスズメが外来種として見られる地域はあるものの、アメリカで普通のSparrowと呼ばれるのはホオジロ科の小鳥たちです。

ちです。

小鳥の多くは虫が主食で、虫をつまみやすいピンセット型の嘴をしています。スズメ科やホオジロ科などは例外で、植物の種子を主食とし、種子を食べるのに適したペンチ型の嘴をしています。近年、分子系統学の研究によってこれら種子食の小鳥は、高山に棲むイワヒバリの仲間から進化したことがわかってきました。食物資源が多くない環境で、さまざまなものを食べるようになった結果かも知れません。

〈近年わかったこと〉

かねてから秋冬は嘴の基部の色が淡いスズメが多いことを気にしていたものの、私はきちんと調べることができな



冬のスズメ：夏が過ぎると嘴の基部が淡いスズメが多く、秋冬の姿として冬羽と呼べるかも知れない。

いでいきましたが、2016年の鳥学会の大会で、黒い嘴の基部が淡くなるのは季節変化であることを北海道の玉田克巳さんが報告してくれました。

2017年の鳥学会でも嬉しい報告がありました。故高野伸二から、「水浴びをする多くの鳥は砂浴びをせず、砂浴びをするヒバリやキジ科は水浴びはしないのに、スズメは両方する」と教えられ、水浴び後に砂浴びもするスズメに気づいてはいました。

何故かは不明ですが、荒川区の本間幸治さんは観察記録を蓄積して、水浴びした直後に砂浴びが多いことを報告してくれました。

〈なわわかっていないこと〉

現在気になっているのは、スズメの冬のねぐらです。竹やぶでの集団ねぐらは古くから知られていましたが、近年は、駅前の街路樹で集団で寝るスズメもいます。さらに、秋冬に集まって寝るのは若いスズメが主で、成鳥は群れずに営巣した人家の隙間で寝ているのではないか？という可能性が考えられるようになり



春のスズメ：早春から繁殖期、成鳥の嘴は基部まで黒いのが普通で、夏羽と呼べるかも知れない。

ました。冬に巣箱で2羽で寝ているスズメを観察したこともありますが、2羽の場合は番関係が続いている可能性はないでしょうか？

また、冬の間、人家の隙間に、まるで巣作りのように植物の根や茎などを運び込むスズメを見かけます。もし番関係が続いていてペアだったとしても、冬に繁殖することは考えられません（種子食の小鳥もひなには虫を与えるので、子育ては春から夏まではず）。植物の根や茎などを運び込んで、寒さを凌ぐ寝場所を整えているのでしょうか？

文 (公財)日本野鳥の会
 主席研究員 安西英明
 写真 金子精一

あとがき

2018年は「災」という漢字であらわされるように、災害の多い年だった。全国的には、大阪北部地震、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震、台風21号、24号の直撃や記録的猛暑などの様々な「災」が発生した年であった。

地球温暖化の影響なのか、台風が多かったり、雪が多かったり夏の異常な暑さだったり何かが変わってきているのが体感できる。

施設管理をする立場からは、日々の備えといざという時の対応を日頃から整えておくことが大事であることは言うまでもないが、やはり自然の力には逆らえず、無力さを感じる。

幸か不幸かわがまち日野には、自然が多く残されており人々に潤いや安らぎを与えてくれている。この恵まれた環境の中で暮らし続けられるように、災害に負けず安全な施設をめざしたいと思う。

「緑と清流のまち」を掲げるからこそその苦労は絶えないが、日々努力を続け、来年こそはゆったり過ごせるといいなあと思う。これから迎える新しい年は、どんな年になるのか、ぜひ平和な一年になってほしいと願う。

お詫び

Vol.118 清流news 2019年1月1日号の発行が遅れましたことをお詫びいたします。